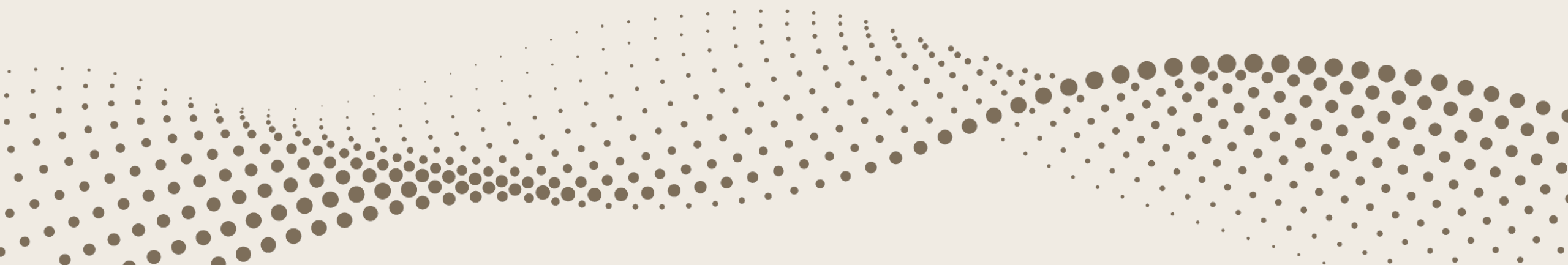


# 圏域の中長期的な将来像の検討

[Confidential] 2025/10/22 松山市企画戦略課



## アジェンダ

1. 目指す将来像の定義
2. 中長期的な将来像案
3. 基本方針案
4. 意見記入シート

# 1. 目指す将来像の定義



# 1. 目指す将来像の定義

## 1.1. 連携中枢都市圏の目的と将来像

- 連携中枢都市圏構想は、圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することが目的である。

### 連携中枢都市圏構想の目的

#### 1. 活力ある社会経済を維持するための拠点を形成する

- コンパクト化とネットワーク化により「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」を行うことにより、活力ある社会経済を維持するための拠点を形成する

#### 2. 人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有する

- 地域において、相当の規模と中核性を備える圏域において市町村が連携し、コンパクト化とネットワーク化により人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有する
- 主として三大都市圏の区域への人口流出を防ぎ、人口減少や高齢化を緩和する

### 制度要綱で定義する「中長期的な将来像」の記載事項

#### 1. 圏域の経済をけん引し人々の暮らしを支えるという観点からの将来像

- 圏域の経済をけん引し人々の暮らしを支えるという観点から、当該連携中枢都市圏の将来像を提示する
- 連携中枢都市圏を形成する市町村における行政需要や経営資源についての客観的・中長期的な将来推計も含むことが望ましい

#### 2. 将来推計人口と将来展望（アウトカム）

- 当該連携中枢都市圏における将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所が公表したもの）
- この将来像には、上記将来推計人口を踏まえつつ算出した、連携中枢都市圏の取組の結果実現されるべき中長期的な将来の人口、高齢化率等の目標を含むものとする

出所：総務省「連携中枢都市圏構想推移新要綱」

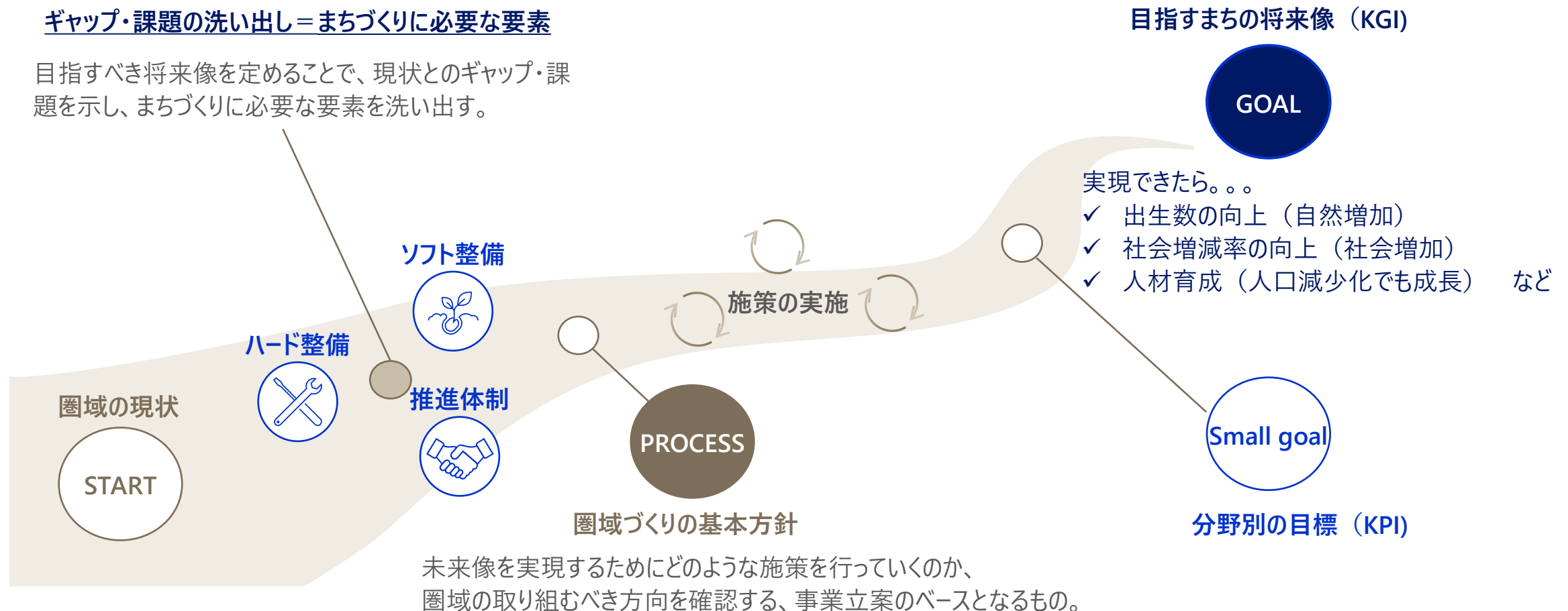
# 1. 目指す将来像の定義

## 1.2. 将来像の基本的な考え方

- 連携中枢都市圏ビジョンでは、地域の未来予測を共同で作成、目指す将来像を具体的に示し、実現に向けた課題を明らかにする。
- また、将来像を実現するための方針と、取組の結果実現されるべき中長期的な将来の人口（＝将来展望）を示す。

### ギャップ・課題の洗い出し＝まちづくりに必要な要素

目指すべき将来像を定めることで、現状とのギャップ・課題を示し、まちづくりに必要な要素を洗い出す。



# 1. 目指す将来像の定義

## 1.3. 現行ビジョンからの改定ポイント

- 現行ビジョンで推進している将来像は継続しつつ、圏域の経済をけん引し人々の暮らしを支えるという観点からその解像度を高め、実現に向けた方針を体系的に示すことで、ステークホルダーとの更なるビジョンの共有と達成に向けた連携を図ることが重要だと考える。

### < 現行ビジョン >

### < 次期ビジョン >

#### 1. 圏域の将来像

～四国カルストから道後、瀬戸内へ～

やま・まち・うみ・ひと、暮らし彩るみんなの松山圏

→**圏域の多様な産業構造と生活環境が強みであると理解**

< 主な記載内容 >

- ・ 地域特性（自然豊か、安全・安心でサービス充実したまち）
- ・ 住民ニーズの考察（自然が感じられる生活、安心・安全）
- ・ 圏域連携の意義・目的（一体感の醸成、魅力向上）

#### 2. 人口の将来展望

圏域内の各市町が総合計画等で展望する将来人口・年齢別人口（構成比）の合算を、松山圏域の将来展望としている

< 主な記載内容 >

- ・ 将来人口推計
- ・ 人口将来展望（将来人口推計・年齢3区分別構成比）

#### 1. 目指すべき将来像の要件定義

- ✓ 圏域の経済をけん引し人々の暮らしを支えるという観点から、達成度を測ることができる将来像を設定する
- ✓ 要綱で定める記載事項に過不足なく回答し、圏域住民にもわかりやすく、簡潔に記載する

#### 2. 人口の将来展望・推計方法は、現行を継続

- ✓ 圏域の将来推計人口は、社人研が公表したものとする
- ✓ 圏域の将来展望は、圏域内の各市町が総合計画等で展望する将来人口・年齢別人口（構成比）の合算とする。

#### 3. 推進体制の構築

- ✓ ゴールまでの道のりと責任の計画化、進捗管理
- ✓ 市町横断でのプロジェクト推進体制

## 2. 中長期的な将来像案



## 2. 中長期的な将来像案

### 2.1. 次期ビジョンで目指すべき姿 (To Be)

- 今後も一定の圏域人口を有するには、機能の集約等により生活環境を維持しつつ、短期的に流出を抑え、長期的に自然増を促すしかない。
- 圏域市町の産業構造と生活環境の多様性を生かし、“納得できる仕事と必要なサービスにアクセスできる環境”を整えることが重要である。  
(⇒ 圏域の将来像)

#### 圏域の未来予測

社会減による出生数低下のループにより人口は減少する

特化係数の高い産業で就業者数が大幅に減少する

現役世代人口と医療・介護需要等にギャップが生じる

#### 課題へのアプローチ

生産性の向上や機能の集約等によって持続可能な圏域づくりを目指す (= 適応策)

人口減のダウンストレスを緩和し、さらには社会増加の実現を目指す (= 緩和策)

#### アクションプラン

地場産業の活性化 (食・ものづくり、観光・サービス)

連携によるコスト削減と機能強化 (医療・介護、防災)

公共施設マネジメントを踏まえた施設集約化・閉鎖

移動インフラの改善と利便性向上 (広域ネットワーク)

To Be... “納得できる仕事と必要なサービスにアクセスできる環境”

仕事にアクセスし、生活できる環境を整える



① 納得できる仕事にアクセスできれば、住民は流出せず、外からも人は流入する



② 企業活動や賃金から得られる税金を子育てや生活環境整備に大胆に振り向けられる



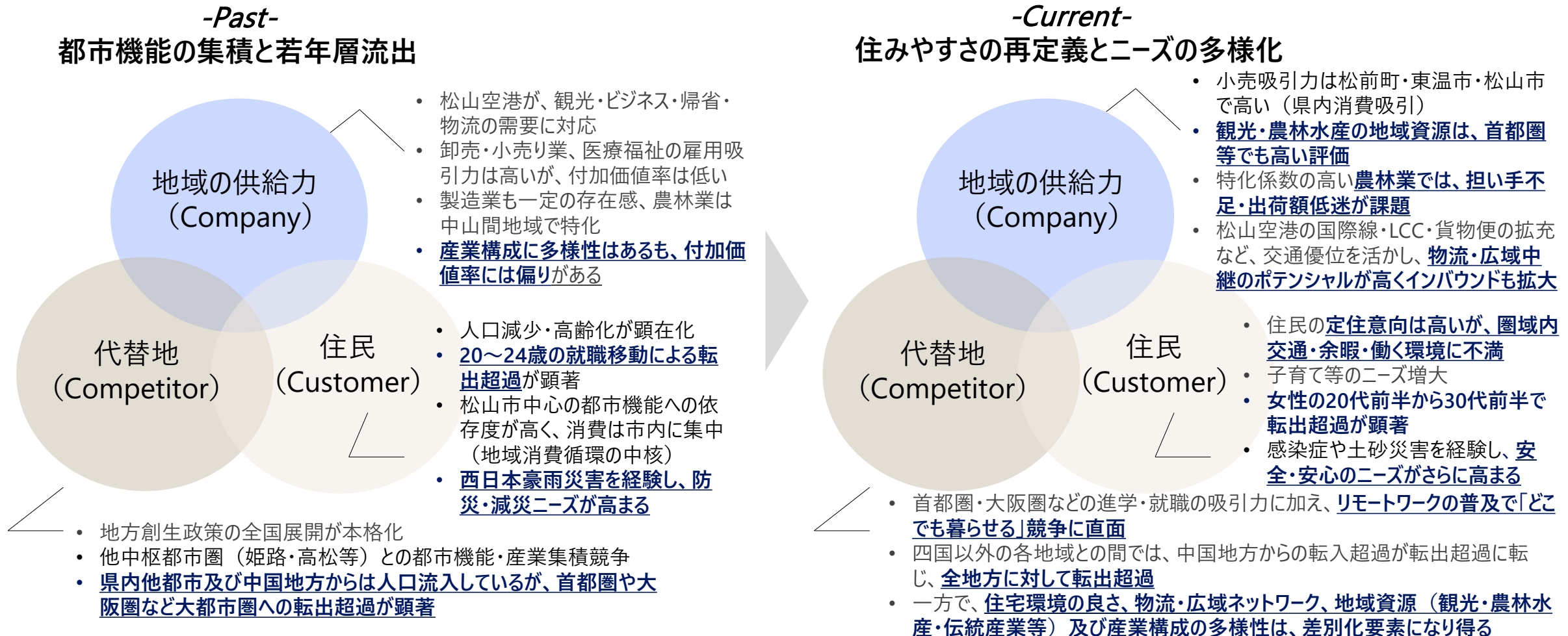
③ 環境が整えば出生数も移住者も増え人口を維持できる。①への好循環が生まれる

## 2. 中長期的な将来像案

### 2.2. 本圏域を取り巻く環境

- 基礎調査、住民アンケート、地域の未来予測等をインプットに本圏域を取り巻く環境を整理し、次期ビジョンで目指すべき方向性を示す。

※以下の3C分析は、Company = 地域の供給力（行政・産業・インフラ）、Customer = 住民・就業者・来訪者（定住・交流・関係人口）、Competitor = 代替地・代替手段（近隣都市・首都圏・オンライン）という拡張定義で接続する。Past=2016-2020, Current=2021-2025, Future=2026-2030

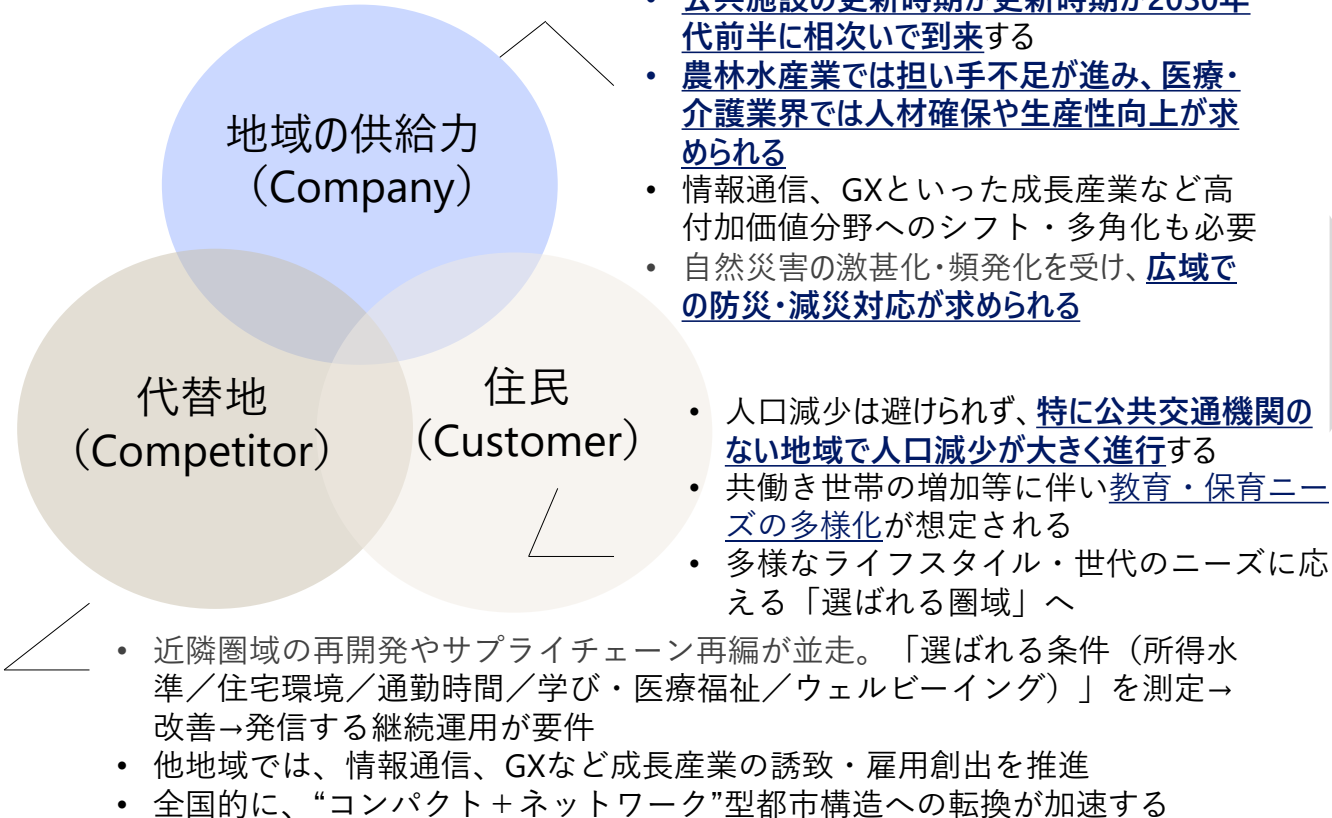


## 2. 中長期的な将来像案

### 2.3. 今後の圏域づくりにおける重要成功要因

- 圏域地場産業の活性化、産業補完と雇用の多様化を通じて、若者・女性・移住者が納得できる仕事を地元で実現することが必須である。
- また、都市機能を集積しつつ、各市町での良好な生活環境を維持するために、仕事や生活サービスへのアクセスを担保することが重要である。

#### -Future- 雇用の多様化とネットワーク化



#### 3C分析を踏まえた戦略仮説の方向性

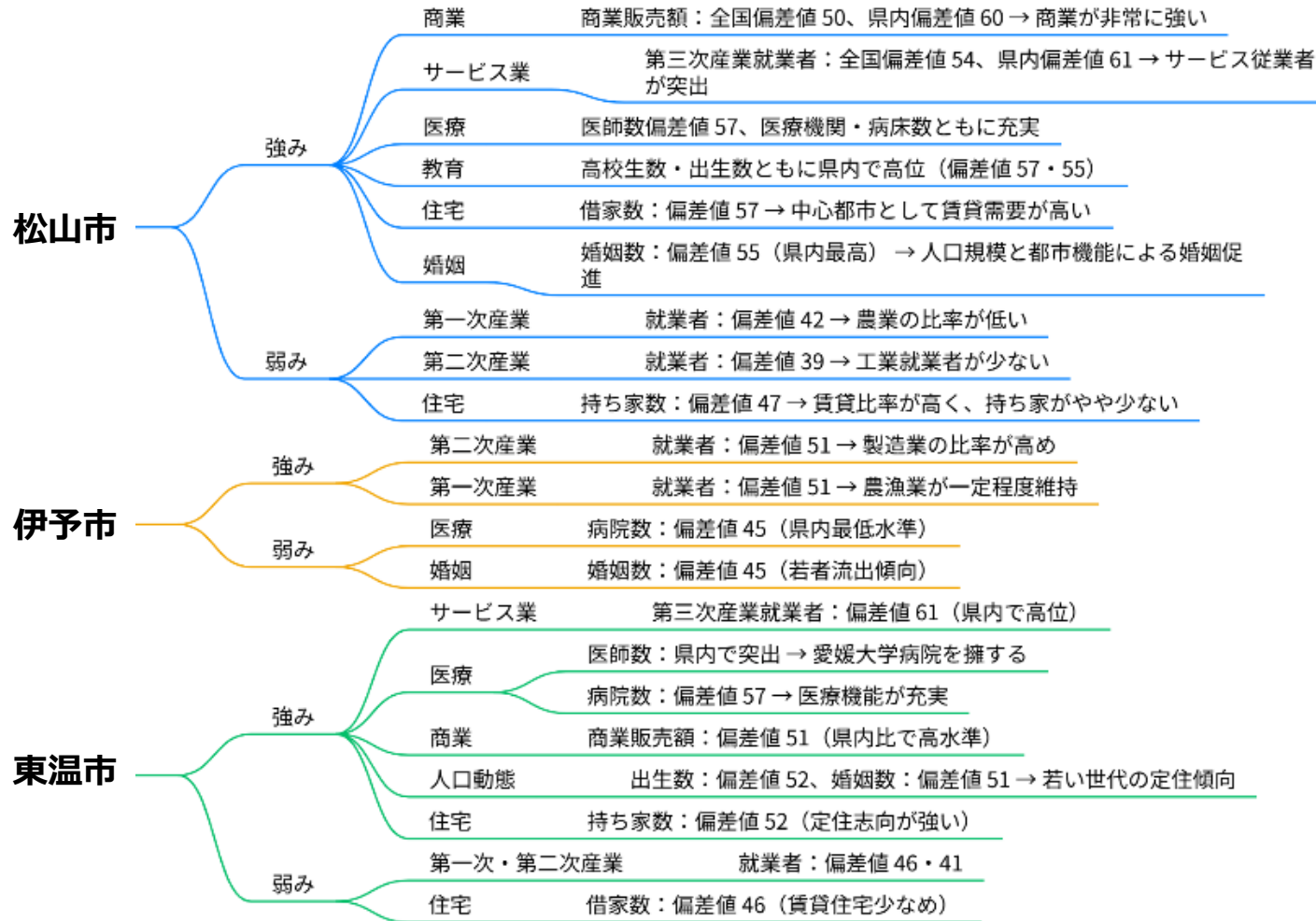
- 産業ポートフォリオの多角化  
・サービス業・医療福祉の強みを活かしつつ、情報通信・専門サービス等の高付加価値分野を強化し、雇用の創出・多様化を図る
- 地場産業の活性化  
・農林水産等、松山圏域が誇る地域資源のブランド化・6次産業化を図り、圏域への若者・女性の新規参入を促進  
・デジタル化等による地場産業の生産性向上、雇用環境の整備  
・道路・空港・航路ネットワークを最大限に活用した観光促進
- 都市機能の集積・強化とネットワーク化  
・“コンパクト＋ネットワーク”で持続性を担保しつつ、サービスアクセスを保障し、圏域のどこでも安全・安心に暮らせる圏域を実現
- 人材育成・専門人材の共有  
・市町単独では確保が困難となる専門人材・技術職の共有

納得できる仕事と必要なサービスに  
アクセスできる環境の実現

## 2. 中長期的な将来像案

### 2.4. (参考) 統計データからみる松山圏域の特徴 (1/2)

主要統計の都市間比較 ※全国偏差値、県内偏差値



松山圏域の特徴 ～主要統計に基づく考察～

#### 【松山市】

- ・医療・教育の中核拠点であり、大学や大規模病院が集中
- ・商業販売額やサービス業就業者数が県内で突出する経済の中心地
- ・一方で、製造業・農林水産業の比率が低く、産業構造がサービス業に偏重しており、高齢化も進行
- ・圏域全体のエンジンとして雇用創出や高度サービス提供を担い、行政・文化・観光の中心都市としての役割

#### 【伊予市】

- ・製造業就業者の比率がやや高い。農業・水産業の就業者割合も比較的維持され、産業バランスに優れる
- ・若者の流出による人口減少・少子化が課題で、小児科、病院数など医療インフラが県内でも少ない
- ・圏域において製造業・農漁業の拠点となり、製品生産や農水産物の供給で地域経済を支える役割

#### 【東温市】

- ・愛媛大学附属病院があり、医療資源が豊富で地域の医療拠点
- ・商業販売額は県内平均を上回り、製造業や農業の割合は低い
- ・スマートICの開通により、交通利便性が向上。若い世代の定住と社会増が進むが、一方で賃貸住宅が少なく、住環境の選択肢が限定的
- ・圏域において高度医療を支えつつ、住宅都市として人口維持に寄与する役割

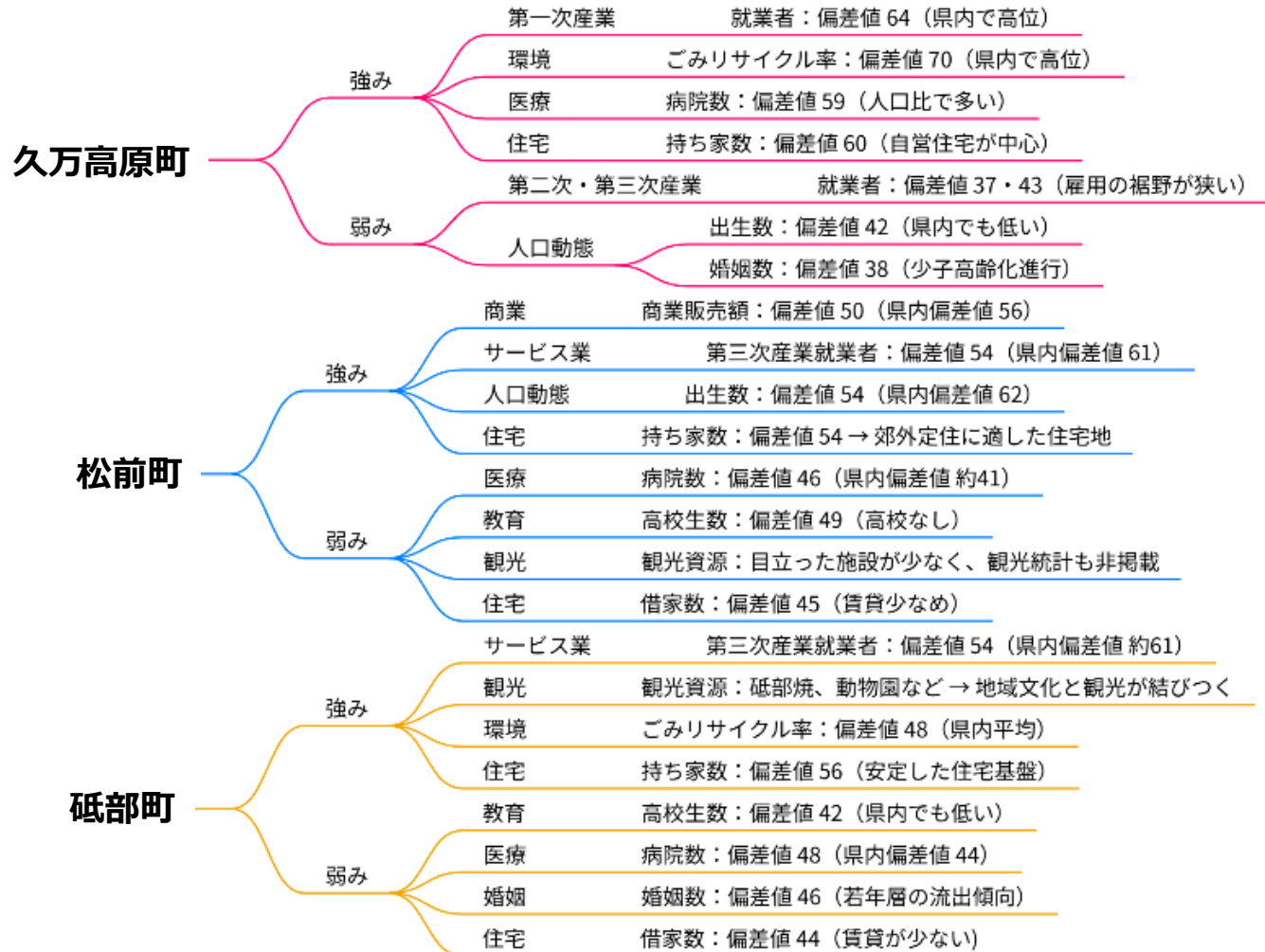
資料：アビームコンサルティング分析結果（統計でみる市区町村のすがた2024）。約150項目の統計データについて人口当たりの指標を算出し、偏差値化による分析を実施。

## 2. 中長期的な将来像案

### 2.4. (参考) 統計データからみる松山圏域の特徴 (2/2)

主要統計の都市間比較 ※全国偏差値、県内偏差値

松山圏域の特徴 ～主要統計に基づく考察～



#### 【久万高原町】

- 農林業などの一次産業が盛んな山村地域で、豊かな自然環境と農林資源に恵まれる、住民の多くが持ち家を持つなど定住志向がある。
- 出生率は県内平均より高いが、一次産業以外の雇用が少なく、社会減による人口減少・少子高齢化が深刻化
- 圏域において農産物や林産資源の供給地として期待され、グリーンツーリズムや環境保全に貢献する役割

#### 【松前町】

- 商業が盛んで小売販売額は県内上位、サービス業も多い
- 郊外型の住宅地が広がり持ち家率が高く、出生率も比較的高い(圏域では松前町のみ未婚率が低下)
- 医療・教育面で松山市に通院・通学しており、交流人口が少ない
- 賃貸住宅が少なく、転入者受け入れを拡大できる可能性がある
- 圏域において商業・流通の拠点として日常生活サービスを提供し、ベッドタウンとしての役割

#### 【砥部町】

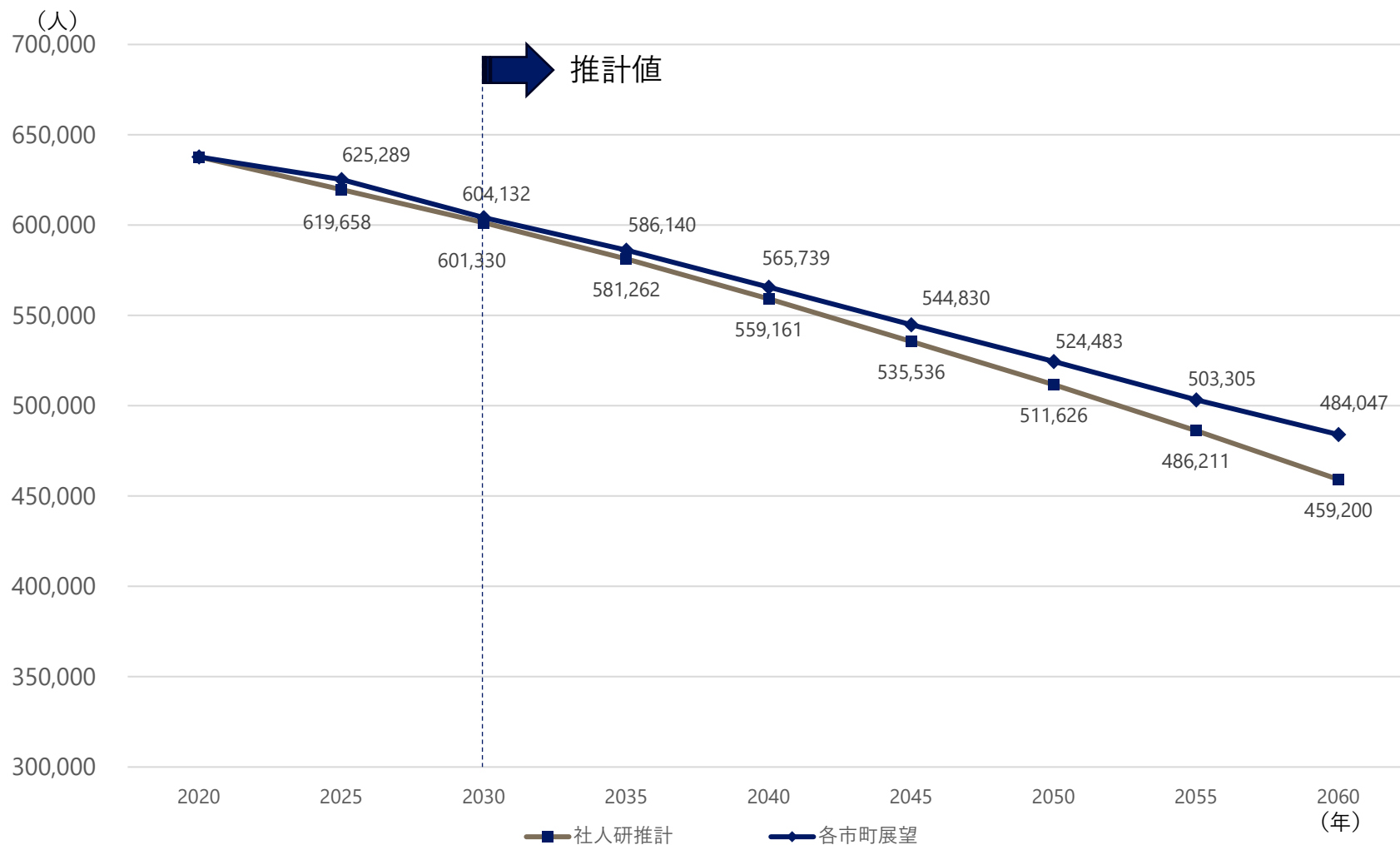
- 砥部焼や動物園といった観光資源が豊富で、地域文化と観光が融合していることが強み
- 高い持ち家率と安定した住宅基盤があるが、高校教育や医療体制の不足、若者の流出による婚姻・出生数の減少、高齢化、賃貸住宅の不足は今後の課題
- 圏域において地域産業の振興や観光客誘致、伝統工芸や文化観光の発信地として地域活性化に貢献する役割

資料：アビームコンサルティング分析結果(統計でみる市区町村のすがた2024)。約150項目の統計データについて人口当たりの指標を算出し、偏差値化による分析を実施。

## 2. 中長期的な将来像案

### 2.5. 圏域の将来展望

- 圏域内の各市町が総合計画等で展望する将来人口や年齢別人口（構成比）の合算を松山圏域の将来展望とする。
- 社人研推計と比較して、2035年頃から人口減のスピードは緩やかになりことから、一定の圏域人口の維持に寄与しているといえる。



### 3. 基本方針案



### 3. 基本方針案

#### 3.1. 次期ビジョンの基本方針とアクションプランの概要

役割	将来像の達成に向けた狙い	主なアクションプラン案
<b>圏域全体の経済成長のけん引</b>	<p>松山圏域の多様な産業構造の特徴を生かし、中小企業の振興や、農林水産業の活性化、広域的な観光施策の展開など、雇用の多様化と地域経済の成長・活性化を図ることで、社会増と歳入の増加を達成する。</p> <p>&lt; KPI &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・圏域内総生産（百万円）</li><li>・観光客数（千人）</li></ul>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. <b>市町の特長を生かした一体的な産業振興と企業活動支援</b> → 主な取組：中小企業の競争力向上、成長産業の企業立地</li><li>2. <b>農林水産物のブランド化と6次産業化による販路拡大</b> → 主な取組：農林水産物のブランド化・販路拡大、地域資源の圏域内流通の促進</li><li>3. <b>広域観光の推進</b> → 主な取組：道後温泉を軸とした観光振興、瀬戸内海を軸とした広域観光ルートの強化</li></ol>
<b>高次の都市機能の集積・強化</b>	<p>連携により消防・防災力を強化するとともに、施設集約化等によりコスト削減と機能向上を図る。また、広域的公共交通網などの整備を図ることで、誰もが仕事やサービスにアクセスできる環境を創出し、生活の利便性を背景とした社会増と歳出削減を達成する。</p> <p>&lt; KPI &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・広域交通拠点（JR松山駅、松山空港、松山観光港）の乗降客数（千人）</li><li>・施設運営コストの削減率（集約による効率化） TBD</li></ul>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. <b>安全・安心の圏域づくり</b> → 主な取組：救急医療提供体制の維持、災害時の交通・輸送の連携強化（広域避難計画への反映）</li><li>2. <b>広域的公共交通網の構築と圏域拠点の整備</b> → 主な取組：救急医療提供体制の維持、圏域内消防機能の共同運用、災害時の交通・輸送の連携（広域避難計画）</li><li>3. <b>人材育成、専門人材の活用</b> → 主な取組：学校やUDCMと連携した地域課題プログラムの実施、複業人材・専門人材・技術職等の確保・共有</li></ol>
<b>圏域全体の生活関連機能サービスの向上</b>	<p>圏域住民の生活の利便性及び質的向上のための行政サービス機能のネットワーク化や、効率化等を推進し、定住から出生の好循環を形成する。</p> <p>&lt; KPI &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域団体・NPOとの連携事業数</li><li>・住民・サービスの満足度スコア（個別計画等で測定可能なもの） TBD</li></ul>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. <b>医療・介護・福祉サービスの充実</b> → 主な取組：救急医療の適正利用、救急ワークステーションの活用、健康づくりの推進、医療・介護人材の確保 等</li><li>2. <b>結婚・出産・子育て支援の充実</b> → 主な取組：保育の広域受け入れ、子育てイベントの共同開催、婚活支援事業の共同実施、産後ケアの推進 等</li><li>3. <b>地域活性化・共創の促進</b> → 主な取組：松山圏域交流促進事業 等</li></ol>

### 3. 基本方針案

#### 3.2. 基本方針とアクションプラン案の詳細（新旧対照表） 1/2

- 次期ビジョンでは、現行の施策体系をベースに、専門委員会の意見を踏まえて必要な施策体系の見直しを行う。なお、連携中枢都市圏の取組は、各市町の交付税措置の算定に関わることから、連携市町と十分に協議した上で、取組のスクラップ＆ビルドを行う。

#### 経済成長

#### 現行ビジョン

1. 市町の特長を生かした一体的な産業振興と企業活動支援  
→ 取組：中小企業の振興、企業立地
2. 農林水産物のブランド化と6次産業化による販路拡大  
→ 取組：圏域が誇る農林水産物の消費拡大、有害鳥獣の連携捕獲、ICTを活用した「スマート農業」の研究
3. 広域観光の推進  
→ 取組：道後温泉を軸とした観光振興、圏域全体の観光資源を対象としたプロモーションやファムツアーの実施

#### 機能集積

1. 安全・安心の圏域づくり  
→ 取組：救急医療提供体制の維持、火災調査事例の共同研究と合同調査、圏域内消防機能の共同運用 等
2. 広域的公共交通網の構築と圏域拠点の整備  
→ 取組：都市圏域内の道路ネットワークの強化、松山空港の利用促進、JR松山駅周辺地区整備事業による広域交通結節機能の向上
3. 圏域における課題解決機能の向上  
→ 取組：松山アーバンデザインセンターによる人材育成、SDGsの推進

#### 次期ビジョン案 ※赤字は検討予定（参考）

1. 市町の特長を生かした一体的な産業振興と企業活動支援  
→ 取組案：中小企業の競争力向上、成長産業の企業立地
2. 農林水産物のブランド化と6次産業化による販路拡大  
→ 取組案：農林水産物のブランド化・販路拡大、有害鳥獣の連携捕獲、地域資源の圏域内流通の促進、ふるさと納税共通返礼品の開発
3. 広域観光の推進  
→ 取組案：道後温泉を軸とした観光振興、瀬戸内海を軸とした広域観光ルートの強化、

#### 変更ポイント

- ✓ 企業立地では、国の動向や他圏域における産業集積のトレンドをベンチマークしている
- ✓ 第1回専門委員会からの意見・提案を踏まえ、圏域ブランドの形成と販路拡大、連携市町が有する地域資源の活用を取組案に盛り込んだ
- ✓ 広島～松山間の観光回遊性を向上を検討
- ✓ 安全・安心の分野では、消防・救急に加え、災害におけるレジリエンス強化の視点を追加
- ✓ 交通ターミナル機能では、直近のバスタプロジェクトの状況を反映し、時点更新
- ✓ 現行ビジョンにおける「課題解決機能の向上」は、より具体化するために、人材育成・専門人材の共有にフォーカスする

### 3. 基本方針案

#### 3.2. 基本方針とアクションプラン案の詳細（新旧対照表） 2/2

■ 前頁の続き。

生活関連  
サービス

#### 現行ビジョン

1. **医療・介護・福祉サービスの充実**  
→ 取組：救急医療の適正利用、救急ワークステーションの活用、健康づくりの推進、地域包括ケアシステムの推進
2. **結婚・出産・子育て支援の充実**  
→ 取組：保育の広域受け入れ、子育てイベントの共同開催、婚活支援事業の共同実施、産後ケアの推進 等
3. **文化・スポーツ施策等を通じた圏域の活性化地域活性化・共創の促進**  
→ 取組：圏域全体の図書館利用対象者の拡大、圏域全体の文化施設の戦略的な活用、プロスポーツ支援、スポーツ大会等の誘致・開催に向けた連携協力
4. **災害対策の推進**  
→ 取組：災害対策広域連携事業の推進、災害時の廃棄物処理に関する連携の推進
5. **環境保全施策の推進**  
→ 取組：圏域での地球温暖化対策の推進、環境学習・普及啓発の推進、圏域内ごみ処理広域化の検討 等
6. **暮らしたい・戻りたいと思える圏域づくり**  
→ 取組：移住の促進、広報紙の連携、若者のふるさと体験を通じた誇りや愛着の醸成、民間が主導する連携事業の推進
7. **圏域内行政サービス効率化等の推進**  
→ 取組：公共データの公開拡充と利活用促進、空き家対策及び公営住宅の管理等の共有化、実務研修員の受け入れ

#### 次期ビジョン案 ※赤字は検討予定（参考）

1. **医療・介護・福祉サービスの充実**  
→ 取組案：救急医療の適正利用、救急ワークステーションの活用、健康づくりの推進、**医療・介護人材の確保** 等
2. **結婚・出産・子育て支援の充実**  
→ 取組案：保育の広域受け入れ、子育てイベントの共同開催、婚活支援事業の共同実施、産後ケアの推進 等
3. **圏域の活性化・共創の促進**  
→ 取組案：松山圏域交流促進事業、文化施設の戦略的な活用、プロスポーツ支援、スポーツ大会等の誘致・開催に向けた連携協力、**圏域にフォーカスした地域おこし協力隊の採用** 等
4. **災害対策の推進**  
→ 取組案：災害対策広域連携事業の推進、災害時の廃棄物処理に関する連携の推進
5. **環境保全施策の推進**  
→ 取組案：圏域での地球温暖化対策の推進、環境学習・普及啓発の推進、圏域内ごみ処理広域化の検討 等
6. **暮らしたい・戻りたいと思える圏域づくり**  
→ 取組：移住の促進、広報紙の連携、若者のふるさと体験を通じた誇りや愛着の醸成、**産官学連携組織（プラットフォーム）の共有**
7. **圏域内行政サービス効率化等の推進**  
→ 取組：公共データの公開拡充と利活用促進、空き家対策及び公営住宅の管理等の共有化、**圏域市町での専門・技術職人材の共有**

#### 変更ポイント

- ✓ 地域の未来予測を踏まえ、**医療・介護における人手不足を解消**する
- ✓ 圏域全体での活性化に向け、**交流促進や地域活動の活性化を強化**する
- ✓ **多様なステークホルダーが参画するプラットフォームの縦割り・単独化を解消**する
- ✓ 地域課題に対する当事者意識や協調姿勢の不足を解消する
- ✓ **採用・確保が困難な専門・技術職人材の連携・共有を行政機関内でも促進**する

## 4. 意見記入シート（第2回専門委員会）

- 圏域の未来予測を踏まえ、「中長期的な将来像案」「基本方針案」について、ご意見のご記入をお願いいたします。
- 本シートにご記入いただいた内容は、11月後半に開催する第3回専門委員会でお示しする「中長期的な将来像」「基本方針」の最終案の参考とさせていただきます。  
※恐れ入りますが、ご記入の上、第2回専門委員会（10月22日）にご持参ください。

氏名：

## 4. 意見記入欄（中長期的な将来像案と基本方針案に関するご意見）

### ■ 中長期的な将来像案：

圏域の未来予測等を踏まえ、中長期的な将来像案に関するご意見、修正の方向性や追加すべき観点があれば理由とともに記入してください。

→

---

### ■ 基本方針案：

圏域の未来予測や中長期的な将来像案を踏まえ、基本方針案（アクションプラン）に対するご意見、修正の方向性や追加すべき観点があれば理由とともに記入してください。

→

